

◆ NYダウ指数、日経平均株価、NASDAQ総合指数の推移 (24/1/4~25/9/25)



◆ 予想EPS・予想PER(日経225ベース)の推移 (23/1/4~25/9/25)



<日本株市場の勢い加速、日経平均株価は予想 PER と予想 EPS の上昇が相俟って 5 万円台へ>

・日経平均株価にようやく火が着いた。昨年 8 月初めの「植田ショック」、今年 4 月初めの「トランプ関税ショック」で大暴落、堅調な米国株市場の一方で 24 年 7 月 11 日の史上最高値を更新出来ずに低調な推移が続いた。しかし、25 年 7 月 22 日に米国関税問題で急遽、日米合意に達し、30~31 日の米 FOMC で FRB が 5 会合連続で政策金利を据え置き久々に 150 円/米ドル台を付けるなど円安がぶり返し、米ハイテク大手の決算好調が伝わるなど、日経平均株価は一気に“ブースト相場”となり、記録的な猛暑もなんのその、8 月 12 日に 1 年 1 カ月ぶりの史上最高値更新、お盆中も上昇を続けた。その後、9 月 7 日の石破退陣で政局好転への期待が高まり、上昇の勢いが増している。9 月 10 日→25 日の 10 営業日中に 8 日間、米 NASDAQ 総合指数も 8 日→22 日の 11 営業日中に 9 日間、米 NY ダウも 9 日→22 日の 10 営業日中に 5 日間、史上最高値更新を競い続けた。3 市場の 7 月末から 9 月 25 日（米国 2 市場は 22 日）までの上昇率は、日経平均株価 11.4%と二桁台となり、米 NASDAQ 総合指数 7.9%、NY ダウ 5.1%を大幅に上回る好調相場を記録した。

・日経平均株価は 4 万円台の定着どころか、4 万円台の後半を駆け上がって「5 万円」の大台を目指すような勢いとなっている。NY ダウとの数値差は 9 月 25 日に日経平均株価「4 万 5754 円 93 銭」に対して、NY「4 万 5947 ドル 32 セント」と“192.39”の差まで迫り、24 年 7 月以来の逆転となるのも時間の問題と言えそうだ。右図の日経平均ベース（日経平均採用 225 社）の予想 PER と予想 EPS の推移を見ての通り、まず、予想 PER は日本株に対する期待が高まり 24 年 7 月以来の 17 倍台まで上昇、そして石破退陣で自民党総裁選に進んだことを契機に 8 月 11 日に 18 倍台へと一段と上昇し期待が更に高まっている。しかし、米 NASDAQ 総合指数 32 倍、米 NY ダウ 25.1 倍、ドイツ DAX24.9 倍、イギリス FT100/19.8 倍に比べれば、まだ割安水準。日本企業のガバナンス改革の進展、低 PBR 脱却への取組、稼ぐ力の向上を正しく評価し、さらに政局好転で“日本”が変化することへの期待が高まれば、予想 PER は更なる上昇へと進もう。そして、下落基調が続き頭打ちとなっていた企業収益の『予想 EPS』も、米国関税問題が決着し予想外の円安推移となっていることで、一時は「2402 円」まで後退したのが再び「2500 円」台を取り戻した。25 年度業績の上方修正、26 年度業績が二桁増益となることで予想 EPS の上昇が続く。仮に、来期の予想 EPS が「2800 円」となれば、予想 PER18 倍で日経平均株価は“5 万 400 円”、20 倍で“5 万 6000 円”と 5 万円突破は自然の流れ、米 NY ダウに近づき 22 倍で“6 万 1500 円”も夢物語ではない。

<今のところ、世界株市場に大きな死角はない。新産業革命『AI』時代到来への期待は高い>

・とにかく世界株市場は強い動きが今後も続きそうだ。米 FRB、日銀とも多少のブレがあっても景気失速の回避、インフレ抑制への対応は盤石だろう。世界経済は大きく揺るがない。ウクライナ紛争、パレスチナ問題の収束が難しくても世界が燎原の火に脅かされることはない。一方で、企業の進化と技術の進歩が続くことで、企業業績の上昇トレンドも継続することになるだろう。新たな産業革命である『AI』の時代は始まったばかりである。世界は NVIDIA を軸に、日本はラピダスを軸に壮大なストーリーが進展、巨額のマネーが渦巻くことになるだろう。まずは、半導体関連、データセンター関連が天井知らずの株価上昇になりそうだ。